

14時30分解禁

平成30年7月 全国百貨店売上高概況

平成30年8月21日

I. 概況

1. 売上高総額	5,132億円余
2. 前年同月比	-6.1% (店舗数調整後/2か月ぶりマイナス)
3. 調査対象百貨店	79社 219店 (平成30年6月対比-1社1店)
4. 総店舗面積	5,511,447㎡ (前年同月比:-3.9%)
5. 総従業員数	69,397人 (前年同月比:-4.2%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	12-2月 -0.9%、1-3月 -0.7%、2-4月 0.0%、 3-5月 -0.4%、4-6月 0.6%、5-7月 -1.9%

[参考] 平成29年7月の売上高増減率は-1.4% (店舗数調整後)

【特徴】

7月の売上高は6.1%減と2か月ぶりのマイナスとなった。夏本番を迎えて、各店積極的な集客施策を企画・展開し、高額消費やインバウンドの好調さなども業績を下支えしたが、上旬の西日本豪雨をはじめ、梅雨が明けて以降連日の猛暑、更には月末の台風12号上陸など異常気象のほか、クリアランスセール前倒しの影響や土曜日1日減などのマイナス与件から、売上・客数共に振るわず前年実績には届かなかった。

顧客別では、インバウンド(シェア5.3%)が約272億円(19.8%増)と20か月連続でプラスを維持した一方、国内市場(シェア94.7%/7.2%減)は2か月ぶりに前年を下回った。また、地区別では、10都市が5.1%減とマイナスに転じ、地方(10都市以外の地区)では8.3%減と苦戦が続いている。

商品別では、高気温により日傘、帽子、サングラス、扇子などの盛夏商材やUV関連商品が動いた。国内外ともに好調な化粧品(5.3%増)が牽引し、雑貨(0.8%増)は20か月連続増となったが、セール前倒しが響いた衣料品(11.1%減)や身のまわり品(6.3%減)はマイナスに転じた。食料品(4.2%減)や売場リースの影響を受けている家庭用品(10.4%減)では対前年減が続いている。

なお、百貨店業界が初めて実施した「プレミアム サマー バザール(7月27日からのクリアランス)」は、台風の影響を受けた日を除く月末業績で、前年を上回る効果があったと報告されている。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「7月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇太平洋高気圧の勢力が日本付近で強く、平均気温が北・東・西日本でかなり高かった。また、梅雨前線や台風第7号の影響で西日本を中心に全国的に記録的な大雨となり、「平成30年7月豪雨」が発生した。また、東日本と西日本日本海側では、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、日照時間はかなり多かった。

(2) 営業日数増減 30.9日(前年同月比 -0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日(// -1日/土曜1日減)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数119店舗)

①増加した：15店、②変化なし：31店、③減少した：73店

(5) 7月歳時記(クリアランス、夏休み)の売上(同上/有効回答数90店舗)

①増加した：3店、②変化なし：43店、③減少した：44店

全国百貨店 売上高速報 2018年07月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	513,200,078	100.0	-6.1 (-6.2)
10都市	363,016,497	70.7	-5.1 (-4.6)
札幌	13,313,318	2.6	-2.6
仙台	7,258,408	1.4	-4.3
東京	140,348,733	27.3	-4.5
横浜	31,105,495	6.1	-2.9
名古屋	33,017,245	6.4	-1.6 (-5.2)
京都	20,511,083	4.0	-6.8
大阪	75,445,130	14.7	-1.7
神戸	12,454,087	2.4	-36.0 (-14.0)
広島	10,700,036	2.1	-14.6
福岡	18,862,962	3.7	-4.2
10都市以外の地区	150,183,581	29.3	-8.3 (-9.8)
北海道	1,401,276	0.3	-10.2
東北	6,944,683	1.4	-7.3 (-9.9)
関東	64,734,422	12.6	-7.0 (-11.8)
中部	11,971,707	2.3	-5.2 (-5.6)
近畿	20,023,387	3.9	-16.7 (-10.9)
中国	10,686,886	2.1	-10.9
四国	8,545,162	1.7	-6.4
九州	25,876,058	5.0	-6.0

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	513,200,078	100.0	-6.1 (-6.2)
紳士服・洋品	29,957,786	5.8	-10.8 (-11.0)
婦人服・洋品	94,007,570	18.3	-11.0 (-11.4)
子供服・洋品	9,513,880	1.9	-11.3 (-10.7)
その他衣料品	11,136,822	2.2	-12.2 (-13.3)
衣 料 品	144,616,058	28.2	-11.1 (-11.4)
身のまわり品	67,712,907	13.2	-6.3 (-6.3)
化粧品	44,244,115	8.6	5.3 (5.3)
美術・宝飾・貴金属	30,768,757	6.0	-1.3 (-1.1)
その他雑貨	17,551,316	3.4	-5.9 (-4.5)
雑 貨	92,564,188	18.0	0.8 (1.1)
家 具	5,482,617	1.1	-7.7 (-8.1)
家 電	989,102	0.2	-18.5 (-18.7)
その他家庭用品	14,061,535	2.7	-10.8 (-11.1)
家 庭 用 品	20,533,254	4.0	-10.4 (-10.7)
生 鮮 食 品	30,152,002	5.9	-5.6 (-5.5)
菓 子	39,626,138	7.7	-4.5 (-4.4)
惣 菜	30,794,766	6.0	-4.0 (-3.6)
その他食料品	58,086,965	11.3	-3.2 (-3.7)
食 料 品	158,659,871	30.9	-4.2 (-4.2)
食 堂 喫 茶	14,126,949	2.8	-7.2 (-7.8)
サ ー ビ ス	4,797,107	0.9	-5.3 (-6.1)
そ の 他	10,189,744	2.0	-5.0 (-6.1)
商 品 券	18,022,173	3.5	-8.1 (-9.6)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | - 5.1% (店舗数調整後／2か月ぶりマイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | - 8.3% (店舗数調整後／15か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	- 5.1	- 3.6	2か月ぶりマイナス
札幌	- 2.6	- 0.1	6か月ぶりマイナス
仙台	- 4.3	- 0.1	2か月ぶりマイナス
東京	- 4.5	- 1.2	6か月ぶりマイナス
横浜	- 2.9	- 0.2	2か月ぶりマイナス
名古屋	- 1.6	- 0.1	4か月ぶりマイナス
京都	- 6.8	- 0.3	2か月ぶりマイナス
大阪	- 1.7	- 0.2	19か月ぶりマイナス
神戸	- 36.0	- 1.0	11か月連続マイナス
広島	- 14.6	- 0.3	2か月ぶりマイナス
福岡	- 4.2	- 0.2	12か月ぶりマイナス
10都市以外の地区	- 8.3	- 2.5	15か月連続マイナス
北海道	- 10.2	0.0	22か月連続マイナス*
東北	- 7.3	- 0.1	11か月連続マイナス*
関東	- 7.0	- 0.9	2か月ぶりマイナス
中部	- 5.2	- 0.1	2か月ぶりマイナス
近畿	- 16.7	- 0.7	17か月連続マイナス
中国	- 10.9	- 0.2	4か月連続マイナス*
四国	- 6.4	- 0.1	2か月ぶりマイナス
九州	- 6.0	- 0.3	2か月ぶりマイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が20か月連続のプラスとなった。また、衣料品が2か月ぶり、身のまわり品が7か月ぶり、食料品が14か月連続、家庭用品が31か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が40か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-6.1	—	2か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-10.8	-0.7	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-11.0	-2.1	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-11.3	-0.2	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-12.2	-0.3	33か月連続マイナス
衣料品	-11.1	-3.3	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-6.3	-0.8	7か月ぶりマイナス
化粧品	5.3	0.4	40か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-1.3	-0.1	16か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-5.9	-0.2	2か月ぶりマイナス*
雑貨	0.8	0.1	20か月連続プラス
家具	-7.7	-0.1	3か月ぶりマイナス
家電	-18.5	0.0	2か月連続マイナス
その他家庭用品	-10.8	-0.3	28か月連続マイナス
家庭用品	-10.4	-0.4	31か月連続マイナス
生鮮食品	-5.6	-0.3	52か月連続マイナス*
菓子	-4.5	-0.3	8か月連続マイナス*
惣菜	-4.0	-0.2	10か月連続マイナス*
その他食料品	-3.2	-0.4	4か月連続マイナス*
食料品	-4.2	-1.3	14か月連続マイナス
食堂喫茶	-7.2	-0.2	15か月連続マイナス
サービス	-5.3	0.0	8か月連続マイナス
その他	-5.0	-0.1	3か月連続マイナス
商品券	-8.1	-0.3	89か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成30年7月 東京地区百貨店売上高概況

平成30年8月21日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,403億円余
2. 前年同月比	-4.5% (6か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-4.0%(91.3%) : 非店頭-9.7%(8.7%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成30年6月対比±0店)
5. 総店舗面積	841,341㎡ (前年同月比:-0.7%)
6. 総従業員数	18,028人 (前年同月比:-2.0%)
7. 3か月移動平均値	12-2月 0.5%、1-3月 0.1%、2-4月 0.8%、 3-5月 1.0%、4-6月 3.4%、5-7月 1.0%

〔参考〕平成29年7月の売上高増減率は-0.9%

【特 徴】

- 7月は、盛夏商材や各社趣向を凝らした夏の企画催事などが好調だったものの、異常気象やセールの前倒し、土曜日1日減に加え、一部店舗では改装工事による営業面積減もあり、売上高は4.5%減と6か月ぶりにマイナスに転じた。
- 商品別では、雑貨が3.6%増と20か月連続のプラスとなった。増勢が続く化粧品(40か月連続増)が6.2%増と牽引した。UV対策商品やスキンケアがインバウンド・国内ともに伸長したことに加え、関連イベントも好評だった。
- 衣料品と身のまわり品はセール前倒しの影響を大きく受けマイナス転換した。猛暑によりスーツやパンプスなどは不調だったが、スカート、ブラウスや、帽子、ハンカチ、晴雨兼用傘、サンダルなどは動いた。ラグジュアリーブランドも引き続き好調推移している。
- 食料品は、ギフト商品や人気の高い食品催事が好評で前年をクリアした店舗も見られたが、天候与件による客数減が響きマイナスした。なお、中元商戦はほぼ前年並みであったものの、ネット受注は年々売上を伸ばしている。
- 百貨店業界を挙げて27日から実施した「プレミアム サマー バザール」は、台風の影響を受けた28日を除き、衣料品の伸びが二桁を超える店舗も多く見られるなど、一定の成果が得られた。
- 8月中間段階の商況は、2.8%増(8/15)で推移している。

【要 因】

- 営業日数増減 31.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
 - 増加した: 4店、②変化なし: 5店、③減少した: 10店
- 7月歳時記(クリアランス、夏休み)の売上 (同上/有効回答数13店舗)
 - 増加した: 0店、②変化なし: 7店、③減少した: 6店

東京地区百貨店 売上高速報 2018年07月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	140,348,733	100.0	-4.5
紳士服・洋品	10,200,050	7.3	-11.8
婦人服・洋品	24,252,742	17.3	-6.6
子供服・洋品	2,272,080	1.6	-5.4
その他衣料品	2,654,720	1.9	-12.3
衣 料 品	39,379,592	28.1	-8.3
身のまわり品	20,235,930	14.4	-6.2
化粧品	13,666,893	9.7	6.2
美術・宝飾・貴金属	9,197,374	6.6	-1.5
その他雑貨	5,969,387	4.3	6.2
雑 貨	28,833,654	20.5	3.6
家 具	1,531,087	1.1	-11.0
家 電	656,130	0.5	-20.6
その他家庭用品	3,453,841	2.5	-15.0
家 庭 用 品	5,641,058	4.0	-14.6
生 鮮 食 品	5,524,461	3.9	-4.5
菓 子	10,156,318	7.2	-2.8
惣 菜	7,343,697	5.2	-2.8
その他食料品	14,204,558	10.1	-1.4
食 料 品	37,229,034	26.5	-2.5
食 堂 喫 茶	3,378,278	2.4	-5.3
サ ー ビ ス	1,969,684	1.4	-7.7
そ の 他	3,681,503	2.6	-9.8

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	3,686,052 千円	-4.8
従 業 員 数	18,028 人	-2.0
店 舗 面 積	841,341 m ²	-0.7

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が20か月連続のプラスとなった。また、衣料品が2か月ぶり、食料品が3か月ぶり、身のまわり品が7か月ぶり、家庭用品が2か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が40か月連続、その他雑貨が8か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-4.5	—	6か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-11.8	-0.9	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-6.6	-1.2	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-5.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-12.3	-0.3	2か月ぶりマイナス
衣料品	-8.3	-2.4	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-6.2	-0.9	7か月ぶりマイナス
化粧品	6.2	0.5	40か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-1.5	-0.1	15か月ぶりマイナス*
その他雑貨	6.2	0.2	8か月連続プラス*
雑貨	3.6	0.7	20か月連続プラス
家具	-11.0	-0.1	3か月ぶりマイナス
家電	-20.6	-0.1	2か月連続マイナス
その他家庭用品	-15.0	-0.4	2か月ぶりマイナス
家庭用品	-14.6	-0.7	2か月連続マイナス
生鮮食品	-4.5	-0.2	29か月連続マイナス*
菓子	-2.8	-0.2	2か月ぶりマイナス*
惣菜	-2.8	-0.1	2か月ぶりマイナス*
その他食料品	-1.4	-0.1	3か月ぶりマイナス*
食料品	-2.5	-0.7	3か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-5.3	-0.1	2か月ぶりマイナス
サービス	-7.7	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他	-9.8	-0.3	7か月連続マイナス
商品券	-4.8	-0.1	4か月ぶりマイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>